

2. 流域及び河川の自然環境

2.1 流域の自然環境

斐伊川流域は本州西南部にあたり、自然植生は、上流部におけるブナ帯と、低地帯の照葉樹林帯に二分される。ブナ帯はブナによって代表される落葉広葉樹林帯で、ほかにイヌブナ、ミズナラ、トチノキ、クリ、シデ類、カエデ類、シナノキ、カツラなどが含まれ、地域によってはスギ、ヒノキなどの針葉樹がみられる。ブナ林は船通山、^{まゐら}猿政山などの山頂や山腹斜面に存在するが、自然のブナ林は伐採されて、コナラ、アカマツなどの二次林やスギなどの植林地となっている所が多い。照葉樹林帯にあたる低地においてはシイ類が代表的で、中海周辺部の平野と丘陵地の境界付近に点在する。島根半島から中海・宍道湖の南縁部の丘陵・低山地にはマツ＝常緑広葉樹林が東西に帯状に分布し、中海・宍道湖沿いの丘陵地ではアカマツの林が優勢である。

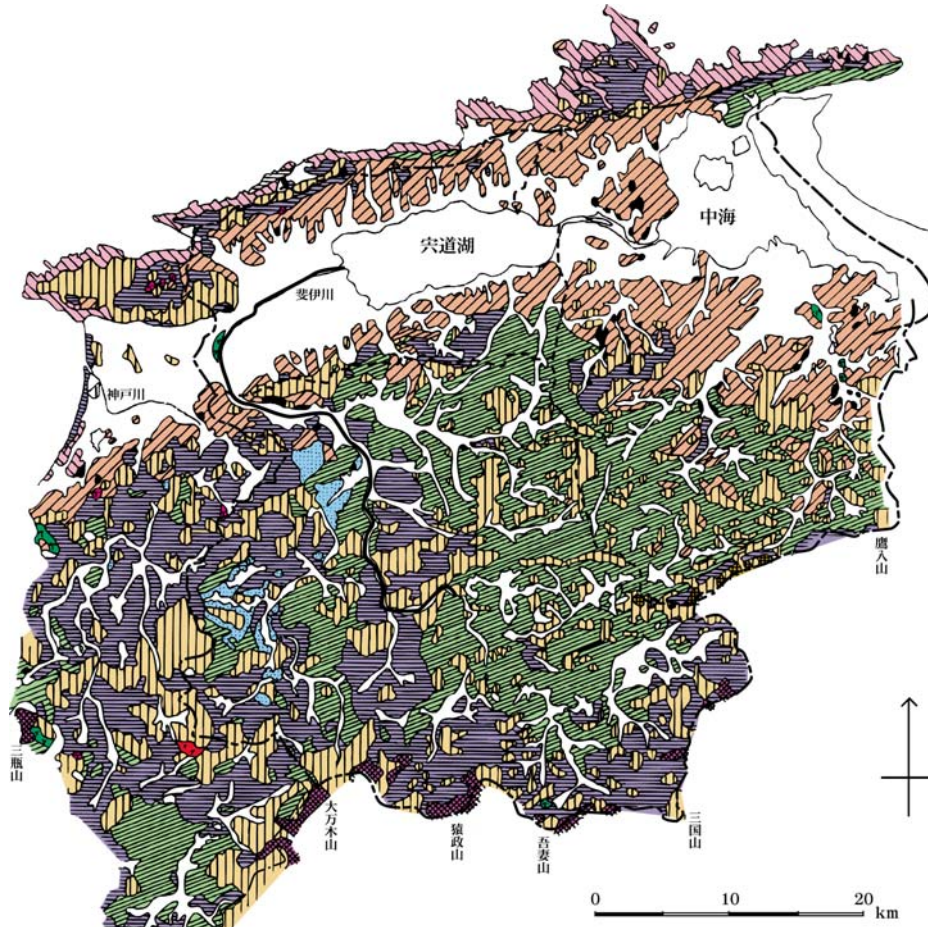
哺乳類の生息についてみると、最も広く分布するのはノウサギで、島根半島 東部では少ないが、流域全域に生息している。次いでタヌキ、イタチが多い。キツネやテン、ムササビも島根半島部を除けば、やや多い部類に入る。

鳥類は、上流部には水際部にヤマセミ、キセキレイ、中流部にはカワセミが、下流部においては高水敷にオオヨシキリ、宍道湖流入部付近および宍道湖、中海はコハクチョウ、マガンなどの水鳥の西日本有数の渡来地となっている。

魚類は、水温が低く清い流れの上流部にタカハヤ、ゴギ、ヤマメ、中流部にはオイカワ、カワムツが生息しているが、下流部は、網状砂州が発達し、オイカワ、ウグイなどがわずかに見られる程度である。また、宍道湖、中海は淡水を好む生物から海水を好む生物まで種類が豊富であり、宍道湖には宍道湖固有種であるシンジコハゼが生息する。

その他、国指定の特別天然記念物のオオサンショウウオは斐伊川の源流部に広く生息する。

また、昆虫類では、宍道湖などの汽水域に生息するナゴヤサナエ、松江市(旧八雲村)の星上山山頂付近のギフチョウ、^{ふべ}布部ダム周辺のムカシトンボなどがあげられる。



凡 例	
■ シイ林	▨ ハマグルマ砂丘
一次林	■ 禾本草類・ササ原
■ カシ類混交林	■ 竹林
■ ブナ・ミズナラ混交林	□ 畑・水田・集落
■ ミズナラ林	— — — 斐伊川水系流域界
二次林	— — — 斐伊川水系内流域界
■ アカマツ・常葉広葉樹混交林	— — — 県界
■ クロマツ・常葉広葉樹混交林	
■ アカマツ・落葉広葉樹混交林	
■ コナラ・クリ林	
■ 常緑針葉樹植林	

斐伊川流域植生図

出典：文化庁(1977)所有 資料

2.2 河川の自然環境

(1) 斐伊川上流部

源流から横田盆地を抜け、木次に至る脊梁山^{せきりょう}地に流れを発する多くの支川をあわせる上流部には、「八岐大蛇伝説」の息づく大渓谷「鬼の舌震^{おにしたがるい}」や、「日本の滝 100 選」にも選ばれた「龍頭ヶ滝^{りゅうず}」「八重滝^{やえ}」等の美しい渓谷美を誇る県立自然公園が点在している。

横田盆地の周辺では、風化花崗岩の浸食による土砂流出により、河床は礫、砂などが多い。「たたら製鉄」の燃料として樹木の伐採が行われたこともあってコナラやアカマツなどの二次林が主体となっている。また、横田盆地を抜けた山間の渓谷部では、急流となって谷あいを蛇行して流れ、河床には大きな礫がみられる。水際にはツルヨシ、メダケ、ネコヤナギなどが連続的に生育しており、出水時に水没するような水際の岩部にはヤシャゼンマイなどの貴重な植物が生育する。水温の低い渓流環境にはヤマメやタカハヤ、カジカ、ゴギ等の魚類が生息・繁殖している。また、プチサンショウウオや国の特別天然記念物に指定されているオオサンショウウオ、クマタカに代表される猛禽類やヤマセミやキセキレイなどの鳥類が生息・繁殖している。



横田盆地を流れる斐伊川

出典：出雲河川事務所所有 資料



渓流区間を流れる斐伊川

出典：出雲河川事務所所有 資料



斐伊川上流部(横田盆地周辺のゆるやかな流れ)

出典：横田町役場所有 資料

【代表的な動植物】



出典：斐伊川・神戸川総合開発工事事務所 資料



出典：斐伊川・神戸川総合開発工事事務所 資料



出典：島根県 水産技術センターHP 提供 資料



出典：斐伊川・神戸川総合開発工事事務所 資料

(2) 斐伊川中流部

木次から上島までの渓谷を抜け、やや開けた谷あいを緩やかに蛇行しながら流れる中流部は、三刀屋川や赤川など大きな支川が合流する。河床には砂の堆積が目立つようになる。

河道内にはメダケ、ヤナギ、水際にはツルヨシ等が連続的に生育する。伊萱床止直下流は淵の形成が見られ、瀬となった箇所はアユの産卵場となっている。そこから下流では、流路は砂の移動により常に変化することから固定された位置に瀬淵が形成されないため、生息する魚種は砂地を好むスナヤツメやカワムツ、オイカワ等限られた種が生息・繁殖している。また、それらを餌として利用するカワセミ等も生息している。河畔林やツルヨシ等で目隠しされた低水路の網状砂州にはコハクチョウなどの渡り鳥が休息場として利用している。



網状砂州が見られる斐伊川

出典：出雲河川事務所所有 資料



斐伊川中流部（出雲市上島付近）

出典：出雲河川事務所所有 資料

【代表的な動植物】



出典：出雲河川事務所所有 資料



出典：出雲河川事務所所有 資料



出典：出雲河川事務所所有 資料



出典：出雲河川事務所所有 資料

(3) 斐伊川下流部

出雲平野を流れて宍道湖に流入するまでの下流部は、砂の堆積がより一層進み、流入支川がなく、河床が堤内地盤より 3~4m 高いところがあるなど典型的な天井川を形成している。

また、かつて、水制工を設置した箇所には土砂が堆積し、高水敷を形成している、

低水路内は平坦な砂河床であり、流路は幾筋にもわかれて安定せず、典型的な網状砂州を形成している。このため、魚類の種類、生息数とも少なく、オイカワ等がわずかに見られる程度である。

一方、堤防沿いに水路を掘り表流水や伏流水を受けて取水する「^{なま}ず^おの尾」と呼ばれる取水法が江戸期より続いており、この水路は斐伊川独特の景観を構成するとともに、マコモやメダカ、ヤリタナゴ、イシガイなどが生育・生息・繁殖する緩流水路が存在する。また、中州や宍道湖流入部等は、コハクチョウや国の天然記念物に指定されているヒシクイ等多くの渡り鳥の渡来・越冬地としてなっている。

また、高水敷にはヨシが、水際にはヤナギが連続的に繁茂し、水際にはカイツブリ等が生息。ヨシ原にはオオヨシキリ等が生息・繁殖している。



網状砂州が発達する斐伊川下流

出典：出雲河川事務所所有 資料



堤防沿いの水路「鯰の尾」

出典：出雲河川事務所所有 資料



水際に連続したヤナギ林を有する斐伊川

出典：出雲河川事務所所有 資料



斐伊川下流部（出雲市大津付近）

出典：出雲河川事務所所有 資料

【代表的な動植物】



出典：出雲河川事務所所有 資料



出典：出雲河川事務所所有 資料



出典：出雲河川事務所所有 資料



出典：出雲河川事務所所有 資料

(4) 宍道湖

宍道湖は、湖底が盆型の形状をしており水深が比較的浅い。塩分濃度は出水や湧水等の影響を受け、ほぼ淡水に近い状態から 10psu 程度まで、場所や期間によって変化する。そのため生息する生物の種類は淡水を好む生物から汽水を好む生物まで様々で、全国一の漁獲量を誇る水深の浅い砂地を好むヤマトシジミ、固有種であるシンジコハゼ、宍道湖を南限とするワカサギ等が生息・繁殖している。

湖岸には宍道湖の原風景であるヨシの群落が所々に見られるが、湖岸堤や沿岸道路の整備による人工湖岸化により沿岸植物が減少している場所もある。斐伊川が宍道湖へ流入している付近は、コハクチョウ、ヒシクイ、マガン等 150 種以上の野鳥が確認できる良好な空間となっており、さらに、宍道湖流入地点付近と宍道湖、中海をあわせた地域は、コハクチョウや国の天然記念物のマガン、スズガモやキンクロハジロ等の水鳥にとって、西日本有数の渡来地であり、平成 17 年 11 月には、水鳥の生息地として国際的に重要な湿地としてラ湖岸のヨシ原ムサール条約湿地に登録されている。

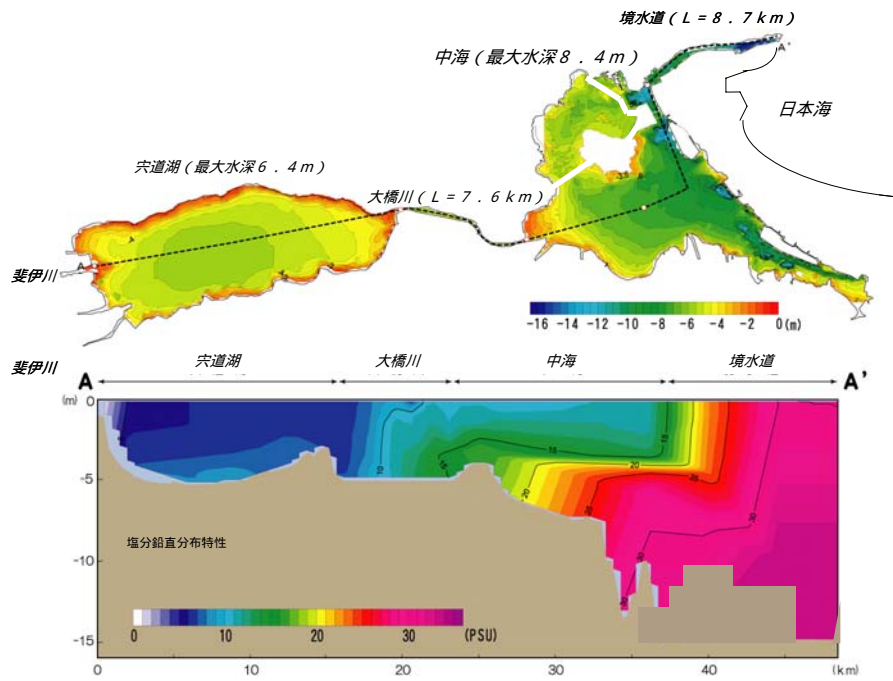


出典：出雲河川事務所所有 資料



宍道湖全景

出典：出雲河川事務所所有 資料



出典：出雲河川事務所作成

【代表的な動植物】



出典：出雲河川事務所所有 資料



出典：出雲河川事務所所有 資料



出典：出雲河川事務所所有 資料



出典：出雲河川事務所所有 資料

(5) 大橋川

宍道湖と中海という異なる汽水環境を有する2つの湖を連結する河川である大橋川^{おおはし}は、中海の水位が高い場合は中海から宍道湖へ、宍道湖の水位が高い場合は中海への水が流れ、その塩分濃度は潮汐により変動し、宍道湖側で低く、中海側で高くなり大橋川では両者の中間的な値となっている。

大橋川は、松江市の中心市街地を貫流しており、宍道湖に近い上流区間は堤防がなく密集市街地が隣接しており、宍道湖や松江城の堀や周辺の支川とあいまって「水郷松江」をかたちづくる水辺空間の一部をなしている。また、中流区間で、大橋川は派川^{けんさき}剣先川に一旦分派し下流で再び合流する。二つの河川に挟まれた中の島は水田等として利用されている。大橋川は、ほとんどの区間で水深5mの掘込河道となっているため、河岸の植生帯はほとんど見られないが、一部に水際の湿地帯が存在し、ヨシ群落や汽水性の貴重なオオクグ群落も存在している。ヨシ群落にはオオヨシキリやカヤネズミ、ヨシダカワザンショウガイ等が生息・繁殖している。河道にはコアマモの大規模群落が存在する。

また、サッパ、コノシロ、スズキ、マハゼなどの魚類が移動経路として利用し、これらを餌とするスズキやミサゴが生息している。

出水や渇水等による塩分濃度の変化に応じてヤマトシジミ・ホトトギスガイなどの分布が変動している。



出典：出雲河川事務所所有 資料



出典：出雲河川事務所所有 資料



大橋川全景(上流から望む)

出典：出雲河川事務所所有 資料

【代表的な動植物】



出典：出雲河川事務所所有 資料



出典：出雲河川事務所所有 資料

(6) 中海

海水の二分の一程度の塩分濃度の中海は、年間を通じて塩分躍層が形成されており、上層と下層の混合が起こりにくい環境にあり、春から秋を中心に下層では貧酸素化が生じている。また、境水道を通じて外海の影響を受けやすい環境である。このため、スズキ、マハゼ、サッパなど海水・汽水魚の種類が豊富である。かつて浅場にはアサリが生息しコアマモ等の藻場が存在したが、干拓や埋め立てなどにより浅場が消失し、現在、藻場は少ない。

広大な水面にはホシハジロやスズガモに代表される多様なカモ類が飛来し、ホトトギスガイなどを餌とする。米子水鳥公園付近などはコハクチョウやマガン等水鳥の西日本有数の渡来地であり、平成17年11月には、水鳥の生息地として国際的に重要な湿地としてラムサール条約に登録された。



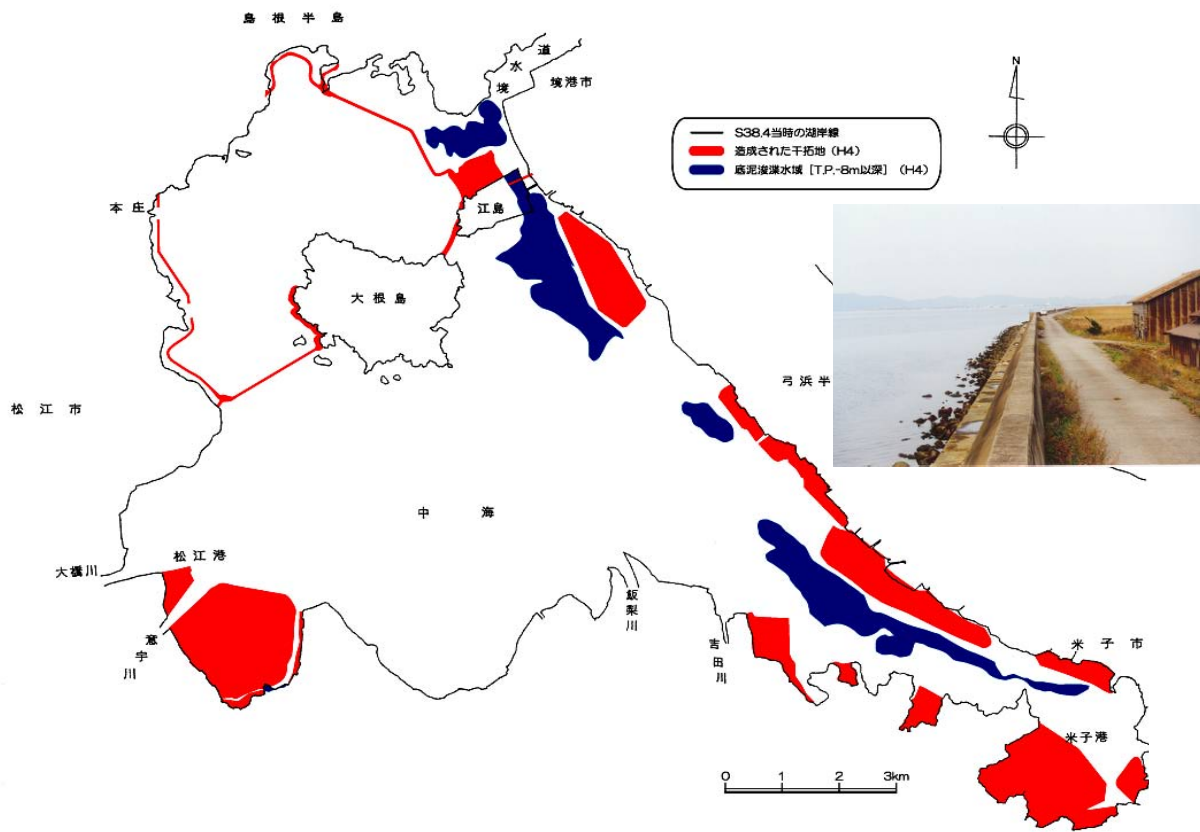
中海全景(米子湾付近から望む)

出典：出雲河川事務所所有 資料



境水道全景(河口から臨む)

出典：出雲河川事務所所有 資料



中海地形の人工改変箇所

出典：出雲河川事務所所有 資料

【代表的な動植物】



出典：出雲河川事務所所有 資料



出典：出雲河川事務所所有 資料

(7) 神戸川中上流部

神戸川は、源流から来島ダム（中国電力）までの上流部に「島根県自然環境保全条例」に基づく「島根県自然環境保全地域」に指定された女亀山や赤名湿地がある。流域の西側には「大山隠岐国立公園」に指定されている三瓶山が控え、すぐれた自然が多く残る地域となっている。また、志津見ダムが建設中である。

中流部には「立久恵峡県立自然公園」に指定された石柱や断崖がそそり立ち、奇岩が屹立する立久恵峡が存在する。

上流の清流にはゴギやヤマメ、国の特別天然記念物に指定されているオオサンショウウオ等が生息し、周辺の植生はコナラやアカマツ等の二次林が主体となっている。出水時に水没するような水際の岩にはヤシャゼンマイやキシツツジ等の植物が生育する他、支川の角井川には冷水性のバイカモが生育する。

山間渓谷の様相を呈する中流部は、所々に発達した山間盆地に集落が発達している他、急峻な地形と清流の創り出す渓谷景観の区間であり、アユやウグイ、ヨシノボリ類が瀬や淵に生息し、清流を好むカジカガエルやオオサンショウウオが生息している。



神戸川立久恵峡付近

出典：出雲河川事務所所有 資料



落ち鮎を対象とした四つ手網

出典：出雲河川事務所所有 資料

【代表的な動植物】



出典：出雲河川事務所所有 資料



出典：出雲河川事務所所有 資料



出典：出雲河川事務所所有 資料



出典：出雲河川事務所所有 資料

(8) 神戸川下流部

出雲平野の扇状地を流れて放水路と合流してから河口までの下流部は、堤防を有するとともに蛇行しながら出雲市市街地周辺を流れる河川である。

メダケ、ネコヤナギ群落の広がる高水敷が形成され、水際にはヨシやヤナギ等の植物が生育している。水域では、瀬にはアユやオイカワ、カワムツ、淵などの止水域にはコイ、フナ、ナマズ等が生息・繁殖し、一部に形成されたワンドにはメダカなどが生息する。河口付近にはボラ等の汽水魚が見られ、汽水域にはヤマトシジミが生息・繁殖し、サクラマスやサケも確認されている。

また、神戸堰の下流や馬木大橋の上流にはアユの産卵場が存在する。なお、ウナギやモクズガニは重要な漁業資源となっている。河口部では防風林として植栽されたクロマツが、白砂青松の景観の一部となっているのに加え、ハマゴウやハマボウフウなど海浜植生も存在する。



古志大橋から上流

出典：出雲河川事務所所有 資料



神戸川 - 斐伊川放水路合流点付近

出典：出雲河川事務所所有 資料



神戸川河口付近

出典：出雲河川事務所所有 資料

【代表的な動植物】



出典：出雲河川事務所所有 資料



出典：出雲河川事務所所有 資料



出典：出雲河川事務所所有 資料



出典：出雲河川事務所所有 資料



神戸川河口のクロマツ林

出典：出雲河川事務所所有 資料

2.3 特徴的な河川景観や文化財等

(1) 景観

1) 斐伊川

神話の川である斐伊川は、四季折々の美しい風景をつくりだしている川でもある。水と岩の芸術「鬼の舌震」、幻想的な光景を見せる八岐大蛇のごとくうろこ状の砂河床の河川「斐伊川」、古くから文人墨客に賞賛をうけた嫁ヶ島と夕陽に代表される「宍道湖」と水郷「松江」、^{だいせん}大山と^{ゆみがはま}弓ヶ浜との調和が素晴らしい「中海」。四季毎に展開する様々な種類の美しい風土に触れながら、人が思い浮かべるのは、やはり古代への夢、神話の世界である。

また、斐伊川上流には日本の滝 100 選に選定された「龍頭ヶ滝」「八重滝」などがみられる。



斐伊川うろこ状の砂河床

出典：出雲河川事務所所有 資料



鬼の舌震

出典：仁多町役場所有 資料



八重滝

出典：出雲河川事務所所有 資料



龍頭ヶ滝

出典：出雲河川事務所所有 資料

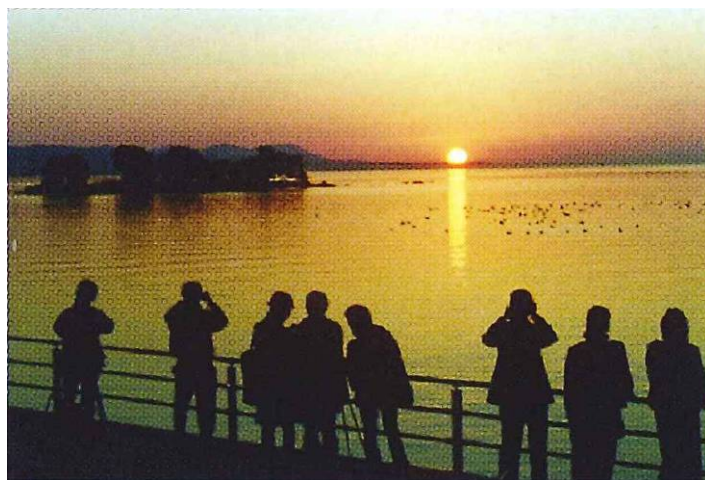
2) 宍道湖・中海

宍道湖では地域の財産として、また良好な自然として後世に継承していくべき風景として「宍道湖水辺八景」が選定されている。

また、「日本の夕日100選」にも選ばれた宍道湖に沈む夕日なども良好な景観資源である。



出典：出雲河川事務所 斐伊川水系管内概要図



嫁ヶ島の残照

出典：出雲河川事務所所有 資料

3) 神戸川

神戸川河口には日本海から吹き寄せる風の防御のために植えられたクロマツ林による白砂青松の景観が見られ、上流では、山陰の耶馬溪と称されている立久恵峡県立自然公園が存在している。また立久恵峡県立自然公園は、神戸川沿いに高さ100~200mの岩壁や岩柱が切り立ち、その下を清流が瀬や淵を作って流れている。

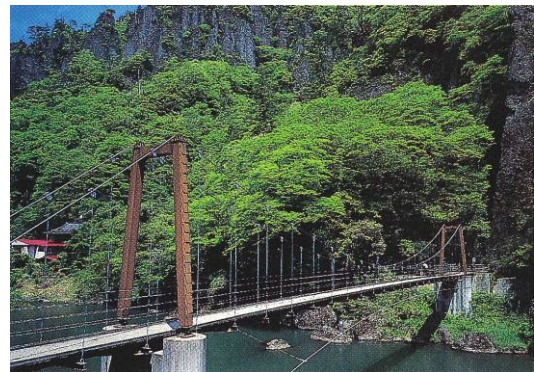
昭和2年に竣工した神戸堰は、直径9mの8つのアーチ弧を持つ固定堰で、歴史的、土木遺産的、現存的価値を有していた。このため、神戸堰改築に当たり、その形状を保全して工事が行われた。

四つ手網漁は、落ち鮎の季節になると行われる独特のアユの漁法であり、神戸川の秋の風物詩となっている。



クロマツ林

出典：出雲河川事務所所有 資料



立久恵峡

出典：出雲河川事務所所有 資料



神戸堰

出典：出雲河川事務所所有 資料



四つ手網漁

出典：出雲河川事務所所有 資料

(2) 文化財及び遺跡等

斐伊川流域では縄文時代以降の遺跡が川のほとりで数多く確認されており、上流域では船通山西麓の横田町竜ノ駒遺跡、阿井川下流の仁多町下鴨倉遺跡などの縄文遺跡がみられ、山陽地方のものと同様性をもつ土器や隠岐産黒曜石で作られた石鏃と石斧・石皿・石錘などが出土し食料源に恵まれた生活が営まれていたことが推測される。中流域では、三刀屋川下流に位置する三刀屋町松本古墳群のうちの一号墳は四世紀頃の築造で、出雲地方では古いタイプの前方後方墳である。赤川左岸の加茂町神原神社古墳からは景初3年(239年)銘をもつ三角縁神獸鏡が出土。斐伊川が平野部に出る位置にある出雲市の西谷丘陵では弥生時代後期の四隅突出型墳丘墓六基を含む西谷墳墓群が造営されている。

出雲平野では弥生時代には砂丘・扇状地・自然堤防上に集落が営まれるが、治水と水田開発が進む古墳時代後期になると集落は増加・拡大した。これは、斐伊川の治水を成功させた首長が、この地域一体に勢力を持つ強大な政治支配者に成長していったものと考えられ、『出雲国風土記』の中にもこの地方の開発を物語る伝承がある。『古事記』にある八岐大蛇説話も、斐伊川の治水になぞらえたものとみることができ、いまでも地域において出雲神楽で演じられている。

近年出雲地方では、斐川町の荒神谷遺跡や加茂町の加茂岩倉遺跡から全国最多の銅剣・銅鐸・銅矛が発見されたのをはじめ、岡田山一号墳出土の太刀から「額田部民...」の銘が検出されたり、斐伊川放水路事業に係る上塩冶横穴古墳群でコイル状の金糸が出土されるなど全国の注目を集めている。

国指定文化財一覧

番号	種類	指定年月日	名称	所在地
1	有形文化財(建造物)	国宝	S27.3.29 神魂神社本殿	松江市
2			S27.3.29 出雲大社本殿	出雲市
3		重文	M37.2.18 清水寺本堂(根本堂)	安来市
4			M37.2.18 雲樹寺四脚門(大門)	安来市
5			S10.5.13 松江城天守	松江市
6			S16.5.8 菅田庵及び向月亭	松江市
7			S27.3.29 神魂神社末社賣布祢稻荷両神社本殿	松江市
8			S28.3.31 日御碕神社社殿	出雲市
9			S44.6.20 木幡家住宅	松江市
10			S44.6.20 堀江家住宅	雲南市
11			S57.2.16 佐太神社	松江市
12			S57.2.16 美保神社本殿	松江市
13		H16.7.6 旧大社駅本屋	出雲市	
14		H16.7.6 出雲大社	出雲市	
15	民俗文化財(有形民俗文化財)	重有民	S30.2.3 諸手船	松江市
16		S34.5.6 たたら製鉄用具	安来市	
17		S35.6.9 美保神社奉納鳴物	松江市	
18		S38.5.15 東比田の山村生産用具	安来市	
19		S38.5.15 そりこ	松江市	
20		S42.11.11 菅谷たたら山内	雲南市	
21	民俗文化財(無形民俗文化財)	重無民	S51.5.4 佐陀神能	松江市
22		H17.2.21 大土地神楽	出雲市	
23	史跡	T10.3.3 出雲国分寺跡 附古道	松江市	
24		T11.10.12 出雲玉作跡	松江市	
25		T13.12.9 大庭鶏塚	松江市	
26		T13.12.9 上塩冷地蔵山古墳	出雲市	
27		S6.11.26 宝塚古墳	出雲市	
28		S8.2.28 徳連場古墳	松江市	
29		S9.1.22 富田城跡	安来市	
30		S9.5.1 松江城	松江市	
31		S11.12.16 安来一里塚	安来市	
32		S32.7.27 金崎古墳群	松江市	
33		S40.4.9 岡田山古墳	松江市	
34		S46.8.12 仲仙寺古墳群	安来市	
35		S54.4.6 石屋古墳	松江市	
36		S62.1.8 荒神谷遺跡	斐川町	
37		H11.1.14 加茂岩倉遺跡	雲南市	
38		H12.3.30 西谷墳墓群	出雲市	
39		H13.8.13 田和山遺跡	松江市	
40	H18.1.26 田儀櫻井家たたら製鉄遺跡	出雲市		
41	名勝	S8.2.28 美保の北浦	松江市	
42	天然記念物	特天	S27.3.29 大根島の熔岩隧道	松江市
43			S27.3.29 オオサンショウウオ	県下全域
44		天	T11.3.8 経島ウミネコ繁殖地	出雲市
45			S7.7.23 築島の岩脈	松江市
46			S7.7.23 多古の七ツ穴	松江市
47			S9.5.1 日御碕の大ソテツ	出雲市
48			S10.6.7 大根島第二熔岩隧道	松江市
49			S12.4.17 海潮のカツラ	雲南市
50			S26.6.9 黒柏鶏	県下全域
51			S45.1.23 オジロフシ	県下全域
52			S46.5.19 カラスバト	県下全域
53			S46.6.28 ヒシクイ	県下全域
54		S46.6.28 マガン	県下全域	
55		S50.6.26 ヤマネ	県下全域	
56		史跡及び名勝	S3.2.7 菅田庵	松江市
57	名勝及び天然記念物	S2.4.8 立久恵	出雲市	
58		S2.6.14 潜戸	松江市	
59	その他(国保有)	重文	S55.6.6 出雲菘籽古墓出土品	出雲市
60			S56.6.9 出雲神原神社古墳出土品	雲南市
61		国宝	H10.6.30 島根県荒神谷遺跡出土品	斐川町
62			H20.7.10 島根県加茂岩倉遺跡出土銅鐙	雲南市
63		-	-	志谷奥遺跡出土品

重文:重要文化財、重有民:重要有形民族文化財、重無民:重要無形民俗文化財、特天:特別天然記念物、天:天然記念物

注1) 有形文化財(建造物)、民俗文化財(有形民俗文化財、無形民族文化財)、史跡、名勝、天然記念物、伝統的建造物群保存地区、国保有を抽出。

注2) 所在市町村が斐伊川流域関係市町村にあたるものを抽出。

出典: 島根県HP>島根県の文化財

県指定文化財一覧

番号	種類	指定年月日	名称	所在地
1	有形文化財(建造物)	S37.6.12	古門堂茶室及び巖松軒茶室	安来市
2		S41.5.1	須佐神社本殿	出雲市
3		S41.5.31	清水寺三重塔	安来市
4		S43.6.7	北島国造家四脚門	出雲市
5		S44.2.18	興雲閣	松江市
6		S44.5.23	明々庵・本席・水屋・鎖の間	松江市
7		S49.12.27	真名井神社本殿	松江市
8		S50.8.12	富田八幡宮社殿	安来市
9		S53.6.23	高真院(松平直政)廟門	松江市
10		S53.6.23	大円庵(松平治郷)廟門	松江市
11		S59.5.4	金屋子神社社殿	安来市
12		S62.8.18	藤間家住宅	出雲市
13		H9.3.28	並河家住宅	安来市
14		H9.3.28	旧大社駅	出雲市
15		H16.4.16	内神社(高野宮)本殿	松江市
16	民俗文化財(有形民俗文化財)	S38.7.2	東比田地方生活用具コレクション	安来市
17		S41.5.31	サバニー	松江市
18		S41.5.31	とんど	松江市
19		S43.6.7	菅谷鋳製鉄用具	雲南市
20		S45.10.27	富村の屋敷構え	斐川町
21		S56.6.9	大社町の吉兆(幡)	出雲市
22		H7.10.27	出雲平野の衣食住および生産用具	斐川町
23	民俗文化財(無形民俗文化財)	S35.9.30	埴田神社青獅子舞	出雲市
24		S36.6.13	大原神職神楽	雲南市
25		S36.6.13	海潮山王寺神楽	雲南市
26		S36.6.13	見々久神楽	出雲市
27		S36.6.13	須佐神社の念仏踊	出雲市
28		S37.6.12	槻の屋神楽	雲南市
29		S49.12.27	多久神社のささら舞	出雲市
30		S53.5.19	宇賀神社の獅子舞	出雲市
31		S56.6.9	大社町の吉兆神事	出雲市
32		S62.4.3	三谷神社投獅子舞	出雲市
33		S63.5.24	神原神社の獅子舞	雲南市
34		史跡	S43.6.7	神庭岩船山古墳
35	S50.2.12		十王免横穴群	松江市
36	S50.8.12		新宮党館跡	安来市
37	S55.6.27		宮田遺跡	雲南市
38	S61.9.19		三刀屋じゃ山城跡及び三刀屋尾崎城跡	雲南市
39	H10.3.27		穴神横穴墓群	安来市
40	H12.3.28		光明寺3号墓	出雲市
41	H16.12.17		堀部第1遺跡	松江市
42	天然記念物	S35.9.30	日本海岸におけるハマナス自生西限地	出雲市
43		S47.7.28	インヨウチク(陰陽竹)群落	安来市
44		S53.5.19	日御碕の黄金孟宗群落	出雲市
45		S57.6.18	いずもナンキン	県下全域
46		S58.6.7	貴船神社のシイ	雲南市
47	H15.12.2	志多備神社のスタジイ	松江市	
48	名勝及び天然記念物	S33.8.1	雲見の滝	雲南市
49	その他(国保有)	S37.6.12	雅楽器	松江市

重文:重要文化財、重有民:重要有形民族文化財、重無民:重要無形民俗文化財、特天:特別天然記念物、天:天然記念物

注1) 有形文化財(建造物)、民俗文化財(有形民俗文化財、無形民族文化財)、史跡、名勝、天然記念物、伝統的建造物群保存地区、国保有を抽出。

注2) 所在市町村が斐伊川流域関係市町村にあたるものを抽出。

出典: 島根県HP>島根県の文化財



上塩冶横穴群から出土した金糸

出典：島根県埋蔵文化財調査センター提供 資料



神原神社古墳から出土した景初三年三角縁神獸鏡

出典：島根県教育委員会提供 資料



荒神谷遺跡の銅剣（国宝）出土状況

出典：島根県教育委員会提供 資料



加茂岩倉遺跡から出土した銅鐸

出典：島根県教育委員会提供 資料



西谷墳丘墓群の四隅突出型墳丘墓復元模型

出典：島根県教育委員会提供 資料



出雲神楽

社団法人 島根県観光連盟提供 資料

2.4 自然公園等の指定状況

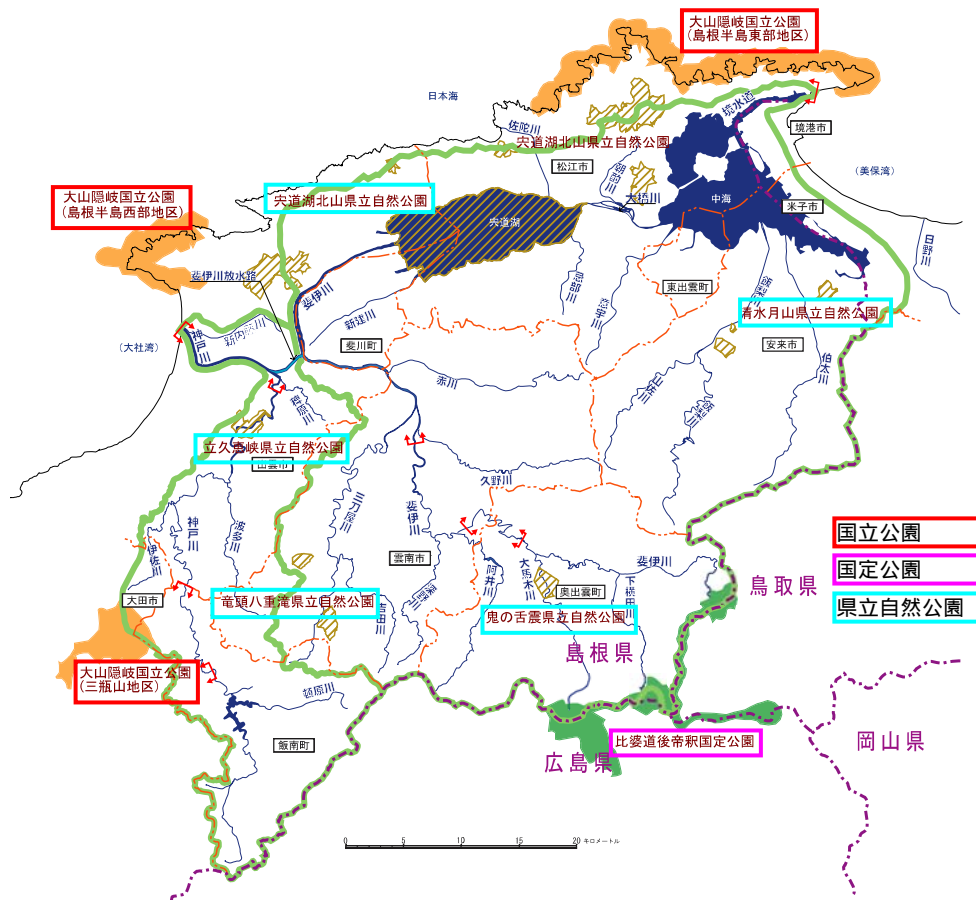
斐伊川流域は、自然環境に恵まれた地域が数多く存在しており、図 2-4 に示すように流域内の自然公園として斐伊川上流部の一部が「比婆道後帝釈国定公園」に、神戸川上流部の一部が「大山隠岐国立公園」に含まれている。また、宍道湖を中心とした周辺が「宍道湖北山県立自然公園」に指定されている他、流域内に「清水月山県立自然公園」「立久恵峡県立自然公園」「竜頭八重滝県立自然公園」「鬼の舌震県立自然公園」が指定されている。国及び県はこれらの地域の自然環境の保全に努めるため、自然公園等に指定し保護・管理している。

天然記念物及び貴重な生物群集

指定	名称	所在地	備考
天	オオサンショウウオ	島根県一円	世界最大の有尾両生類、飯梨川、伯太川上流、斐伊川源流、吉田村南部、琴引川周辺に生息。
国立	美保関の暖地性群落	美保関町	アナイゴケ、コナミキ等の暖地性植物。
国立	星上山の暖地性群落	八雲村	スタジイ等常緑広葉樹の自然林。
国定	船通山のブナ林	横田町	ブナに代表される落葉高木の温帯自然林。
国定	三井野原の湿性植物群落	横田町	落葉広葉樹林と湿性植物。
	中海の白鳥渡来地	中海南岸一円	ハクチョウ等渡り鳥の渡来地。

天：天然記念物、国立：国立公園、国定：国定公園、県公：県立自然公園

出典：文化庁(1977)、島根県環境保全課(1990)所有 資料



斐伊川流域の天然記念物・自然公園

自然公園等の指定状況

指定種類	名称	面積	指定年月日
国立公園	大山隠岐国立公園	35,053ha	S11.2.1
県立自然公園	宍道湖北山県立自然公園	10,618ha	S39.4.17
	立久恵峡県立自然公園	367ha	S39.4.17
	竜頭八重滝県立自然公園	396ha	S42.5.9
	清水月山県立自然公園	360ha	S39.4.17
	鬼の舌震県立自然公園	330ha	S39.4.17
県自然環境保全地域	西谷川オオサンショウウオ繁殖地(安来市)	5.0ha	S57.11.9
	赤名湿地性植物群落(飯南町)	30.18ha	S52.11.1
	女亀山(飯南町)	2.73ha	S62.9.8
ラムサール条約湿地	宍道湖	7,652ha	H17.11
	中海	8,043ha	H17.11
鳥獣保護区 特別保護地区	清水	15ha	
	社日	8ha	
	万寿寺	5ha	
	(国指定)中海	8023ha	
	月山 (国指定)宍道湖	100ha 7652ha	
鳥獣保護区	清水	370ha	
	社日	180ha	
	神西湖	400ha	
	目田	6ha	
	伊秩やすらぎの森	50ha	
	枕木山	68ha	
	熊野	290ha	
	楽山	40ha	
	宍道湖	939ha	
	来待	275ha	
	愛宕山	240ha	
	斐伊川	579ha	
	一の谷	270ha	
	かんべの里	39ha	
	古江	704ha	
	万寿寺	100ha	
	多古鼻	285ha	
	玉造	392ha	
	ふるさと森林公園	57ha	
	片匂	323ha	
	布部ダム	196ha	
	西忌部	130ha	
	神戸川	430ha	
	(国指定)中海	8724ha	
	月山	100ha	
	嵩山	281ha	
	湊原	130ha	
	(国指定)宍道湖	7851ha	
	大社	322ha	
	大池	378ha	
	美保関	560ha	
	地藏崎	230ha	
鱒淵	560ha		
稗愿ダム	9ha		